

社会的認証システム－第三者認証(ステップ3)レビューシート

団体名: 特定非営利活動法人京都西陣会

訪問調査日: 2013年1月31日(木)

評価大項目(分類)	評価中項目	絶対評価コメント	達成率
I. 組織ミッション(社会的使命)と事業の推進	[1]組織ミッション(社会的使命)の確立	組織ミッションは定款や法人パンフレット等に明確に示されており、ホームページや公益活動ポータルサイト「きょうえん」でも公開されている。非営利組織としての位置付けが定款・総会資料決算報告書からも確認できる。組織ミッションを達成するための公益的な基幹事業として、障害者自立支援法に基づいた「就労支援B型事業」等が円滑に運営されている。	20/24 達成率 83%
	[2]組織ミッションと事業の策定	利用者の「工賃倍増5ヶ年計画」や今後利用者のニーズに応じたグループホームの建設等、中長期にかかるヴィジョンはあるが、計画書としては明確には策定されていない。単年度事業計画は、保護者会や個別懇談会等、利用者側の意向も聞き取りながら、職員会議を通じて、合意形成を図り策定されている状況を聞き取ることができる。	
II. 組織と経営管理	[1]意志決定機関とガバナンス	定款に基づき、理事会および最高意思決定機関としての総会が適切に開催されている状況を議事録からも確認できるが、役員構成に課題が見受けられる。運営上必要となるコンプライアンスの把握や法人内周知、研修へのさらなる取組みが求められる。法人の経営環境は理事会で適切に把握・管理されているが、監事による内部監査が行われた書類を確認することができなかった。	19/43 達成率 44%
	[2]適切な財務計画と執行・管理	利用者数の推移表により経営的な側面での管理は行っているが、具体的な経営計画書は確認できない。収入の大部分は制度事業収入が占めているが、会費や寄付等による収入の実績も確認できる。源泉所得税や固定資産税等必要な処理が行われている状況を聞き取ることができる。	
	[3]職員と労働環境	就業規則を整備し、個別雇用契約に基づいて労務管理を行っている。法人補助による懇親会等、法定福利厚生外の取組みが見受けられる。	
III. 事務局の執行体制と管理	[1]組織・事務局体制の確立	月曜～金曜(8:45～17:45)の事務所機能は明確であり、決められた時間帯において、いつでも電話・来所対応が可能になっている。登記事項の更新、所轄庁への報告等、必要な手続行われており、事務所に保管されている状況が確認できる。	21/31 達成率 68%
	[2]会計全般	経理に関する管理規定は策定していないが、慣例的なルールに沿って適切に処理が行われている状況を聞き取ることができる。専門家によるアドバイスを受ける環境が整備されていない。	
	[3]事業を推進するための体制やルール	制度事業として、単年度事業計画に基づく事業の推進状況が見受けられる。その他、年4回の家族会において成果や課題の共有、評価等が行われている状況を聞き取ることができる。	
IV. 社会資源の活用	[1]社会資源(企業/行政/市民など)の連携と活用	ボランティアは希望があれば受け入れている。京都市北区障害者連絡会(KITARE)や西陣織の西陣整経同業組合、障害のある人の授産製品を扱う京都ほっとはあとセンター等と連携して活動している。また、同業組合のイベント「KITARE主催のFUNAOKAスタンダード」に毎年1回参画している。	13/16 達成率 81%
V. 情報の公開と社会的信頼	[1]情報の公開	法人ホームページ・ポータルサイト「きょうえん」等で、組織の基礎情報を公開し、事業報告等フロー情報に関しても適切に更新し、公開に努めている。利用者に対しては、月に1回「西陣工房だより」を発行している。	17/18 達成率 94%
	[2]第三者による評価	障害者自立支援法の施行に伴い、京都市の指定を受け、就労継続支援B型事業所として運営している。日本財団や京都新聞社会福祉事業団他助成実績を確認することができる。障害のある人による西陣織作業という視点から京都新聞や毎日新聞から取材を受けた実績を確認することができる。	
VI. 組織のリスクマネジメントと社会的責任の追求	[1]組織のリスクマネジメント	重要書類の保管や、デジタルデータについて規定はないが、バックアップ・ウイルスソフトで管理している状況が伺える。個人情報の保護に関する規定は確認できないが、「守秘義務」に関する記述をサービス利用契約書から確認することができる。イベント実施時には傷害保険の加入や避難訓練が行われている状況を聞き取ることができる。	5/18 達成率 28%
	[2]組織の社会的責任の追求	特筆的に評価すべき事項は確認できない。	
【相対評価(セルフレビュー)／総括コメント】 本法人は、知的障害のある利用者が、西陣の地に根付いた伝統産業に取り組み、伝統の技を継承し、品質的に確かと言える伝統産業である京組紐や西陣織を製造することを作業メニューとした「就労継続支援B型事業所」として活動しています。対象の障害のある利用者においては、仕事ができる能力を養成するとともに、人間として社会生活を営むことができるだけの能力や社会性を身に付けることをセットで考えており、スポーツや音楽、レクリエーション活動を重視して、利用者一人ひとりが主体的に連帯感をもって成長できることを目的としています。事務局は、常に前向きで、今、西陣工房で対応できる新たな意義深いものを求めています。いくつかの技術的な困難を乗り越えて、織り製品において西陣織と言えぬ域に達する製品を作りつつあり、今後、さらなる技術的な困難を乗り越えて、これぞ西陣織といえる品質の製品を作ることを目標に頑張っています。西陣工房の利用者が、西陣織の担い手として難しい織物をどんどん作っていくことによって、高齢化し後継者難に見舞われている西陣織業界に西陣工房の利用者が新風をもたらす姿を想像しながら日々努めています。 本法人は、京都西陣の地において、障害のある人の作業メニューを西陣織製品とすることで、伝統産業の技と文化を福祉分野で継承していくという非常に特筆的な活動を展開されています。衰退傾向のある西陣織の新たな担い手としても注目を寄せられ、同業団体の支援も得ながら有意義に制度事業を運営されている状況を見受けられます。また、障害のある利用者には、栄養価の高いしっかりとした昼食の提供を行い、障害者卓球バレー大会への参加や事業所としてのレクリエーションの企画実施等、生活面や社会参加にも注力を惜しまず活動の幅を広げられています。事業面では、確かな成果を積み重ねている一方で、役員構成や組織運営に一定の課題が見受けられます。今後は、組織的な課題に対する改善計画を履行される中で、さらに充実した運営をされますことに期待し、本社会的認証システム－第三者認証(ステップ3)において認証しました。			95/150 総合達成率 63%